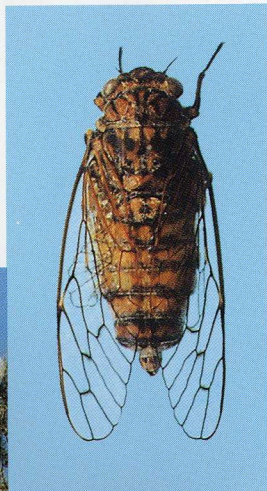


PHOTO ESSAY

西条キャンパスの自然(動物)

-4-



Terpnosia vacua

春 蟬

ハ ル ゼ ミ



理学部
原生生物学講座

小 阪 敏 和

風薫る五月。耳を澄ますと小鳥のさえずりに混じって、聞き慣れない「ギーギーギー……」という鳴き声はどこからか聞こえてくる。ハルゼミである。きつと松林の方角から聞こえてくるはずだ。日本産のセミでは最も早く出現する。この時期にセミが鳴いているのに気づきの方はかなりのセミ通である。生息場所として松林を好むことから、別名マツゼミ(松蟬)とも呼ばれている。

昆虫図鑑の解説風にこのセミを紹介すれば次のようになる。オスは体長二十八〜三十二ミリ、翅端まで三十五〜三十七ミリ。メスは体長二十三〜二十五ミリ、翅端まで三十〜三十五ミリ。翅は透明。日本特産種で本州・四国・九州に分布。五月上旬から六月中旬に出現し、「ギーギー……」あるいは「ムゼームゼー……」と鳴く。広島県では各地の松林に普通。

数年前の六月上旬、夜十時頃、キャンパスの東に位置する、ががら山の松林で、松枯れの元凶とされるマツノザイセンチュウの運搬者として悪名高いマツノマダラカミキリの調査をしていた時に、幸運にもハルゼミの羽化に出会った。懐中電灯の光の中で、目の高さ位の小枝上の羽化したての真白な体がとても印象的だった。

松林を好むセミがキャンパス内には実はもう一種いる。ハルゼミを小型にしたような、本州産では最小のチツチゼミである。名前のごとく「チツチチツチ……」

と同調子の連続音で鳴く。

一九九一年の九月初め、理学部の移転の最中に、新築の建物内で一匹のメスを見かけたことがある。七月から十月頃まで、キャンパス内の松林で鳴き声を聞くことができる。

さて、キャンパス周辺には何種類のセミが生息しているのか存知だろうか。ちなみに広島市の東千田キャンパスでは、クマゼミ、アブラゼミ、ニイニゼミ、ツクツクボウシがいた。

正解は、前述の種にヒグラシ、ハルゼミ、チツチゼミ、ミンミンゼミの四種を加えた八種類である。広島県には全部で十四種類ものセミが分布していて、この数は一つの県で見られる種数としては最多である。セミの多産県で、そのうちの半数以上の種の鳴き声をこのキャンパス周辺で楽しむことができる。

セミの出現には、種類によるおおまかな順序がある。季節暦によると、例えば、七月七日はニイニゼミ、七月十八日はヒグラシとアブラゼミ、八月三日はツクツクボウシの、それぞれ初鳴き日となっている。キャンパスの八種類のセミはどのような順序でいつ鳴き始めるのだろうか。あなただけのセミ暦を作ってみてはいかがだろうか。初鳴きを聞いた日をカレンダーに印をつけるだけでいいのです。一寸した身近な自然とのふれ合いが、人生を二倍にも三倍にも豊かなものにすることでしょう。(こさか・としかず)